さばくかほし

砂漠化する惑星

もくじ

砂漠化とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

砂漠化の被害・影響 ・・・・・・・・・・・・・ 3

砂漠化の原因 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

砂漠化のもたらす深刻な問題 ・・・・・・・・ 7

世界レベルの砂漠化対策 ・・・・・・・・・・ 9

はじめに

私たちが暮らしている地球上では、現在さまざまな環境問題が起きていますが、「砂漠化」も大きな問題のひとつです。「砂漠化」とは、乾燥地や半乾燥地において、気候の大きな変化や人間の活動が原因で、土地がやせて植物が育たなくなってしまうなどの問題を引き起こす現象のことをいいます。そして地球上では今、それが毎年1200万ヘクタール（北海道と九州をあわせたほどの大きさ）のスピードで急速に広がっています。）のスピードで急速に広がっています。問題なのは、「砂漠化の原因」の多くが私たち人間の活動にあるということです。

この小冊子は、児童・生徒の皆さんが、先生や保護者の方と一緒になって「砂漠化」について理解を深めていただくために作成したものです。この小冊子を読んで、一人でも多くの方が「砂漠化」を同じ地球に暮らす私たち自身の問題としてとらえ、また、私たちはどのように行動したらいいのかを真剣に考えてもらえることを願っています。

JICA地球ひろば所長

砂漠化とは

緑の草原がいつの間にか砂漠になる？そんなことがほんとうに起こるのでしょうか。日本に住んでいるとなかなかわからないかも知れませんが、世界のあらゆる場所でこのような現象（砂漠化と呼ぶ）が起こっています。特に乾燥地域では急激に進んでいます。

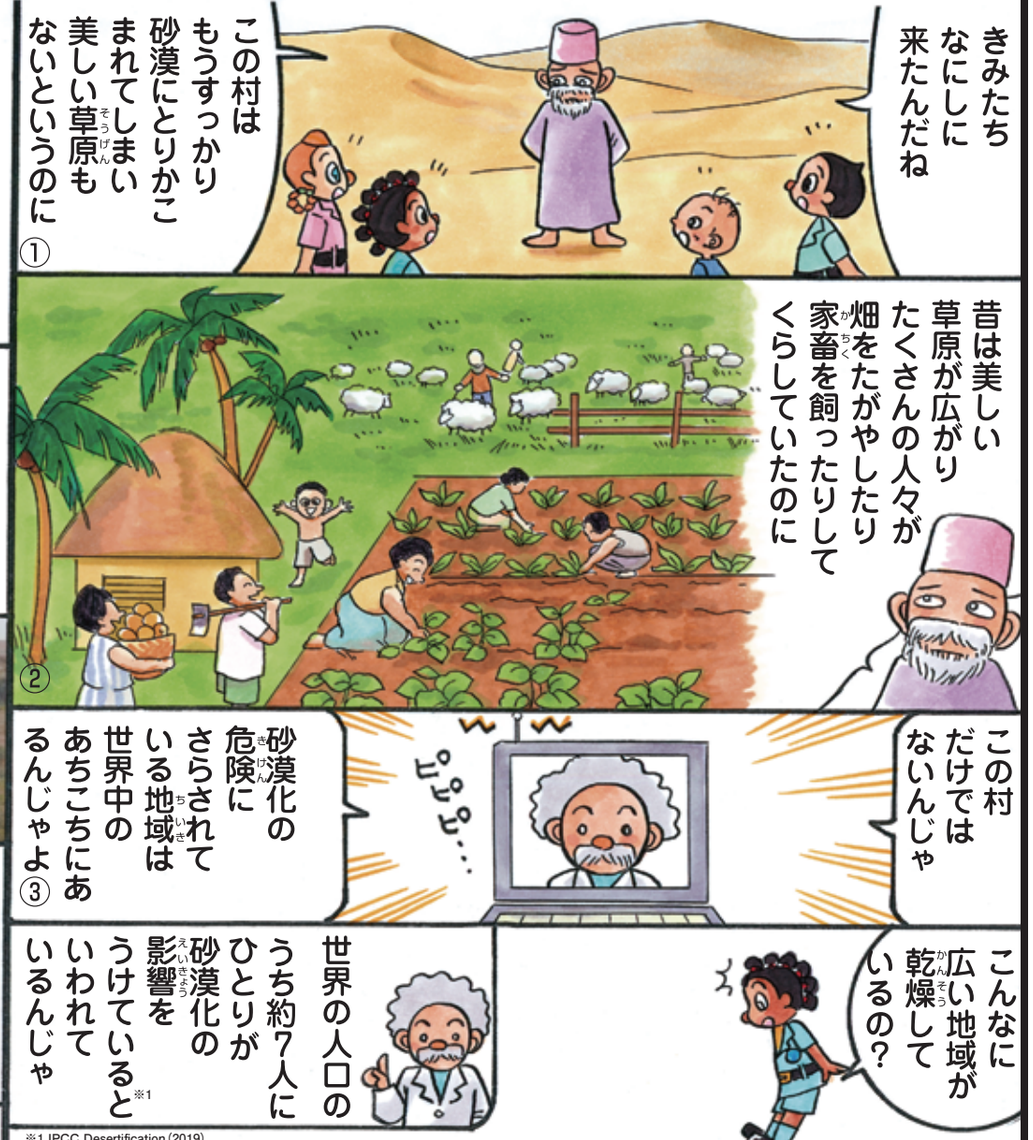
先生・保護者の方へ

国連が定める砂漠化対処条約[1]では、砂漠化を「乾燥、半乾燥および乾燥半湿潤地域におけるさまざまな要因（気候変動および人間活動を含む）に起因する土地の劣化」と定義しています。降雨量が少なく乾燥のため、もともと植物が育たない地域を「砂漠」と呼ぶのに対し、「砂漠化」とは、植生に覆われた地域の土地が劣化することによって砂漠に似た状態になることを指しています。一度砂漠化してしまった土地を元の状態に戻すことは非常に困難です。

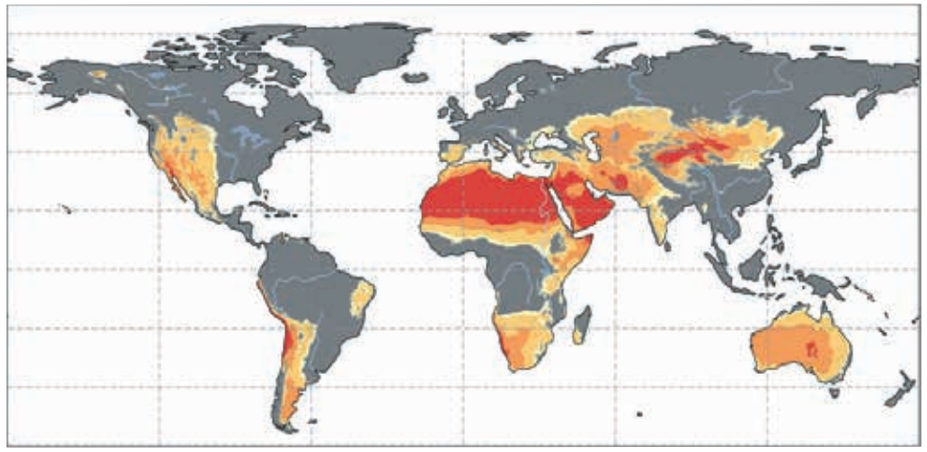
❶ 砂漠化対処条約（正式名称「深刻な干ばつ又は砂漠化に直面する国（特にアフリカの国）における砂漠化に対処するための国際連合条約」）：アフリカを中心とする開発途上国で深刻化する砂漠化問題に対して、国際社会が協力体制を強化し、砂漠化の影響を受けている国・地域が砂漠化に対処するための行動計画を作成・実施すること、また、その取り組みを先進締約国が支援することなどについて規定したもの

砂漠化の被害・影響

たとえば世界一広いサハラ砂漠には、かつて、キャラバン（隊商）が訪れるオアシスの町がたくさんありました。しかし20年も続いた干ばつのため、このような町に周囲から砂が押し寄せ、砂漠がどんどん迫ってきています。今や家は砂に埋もれようとしています。



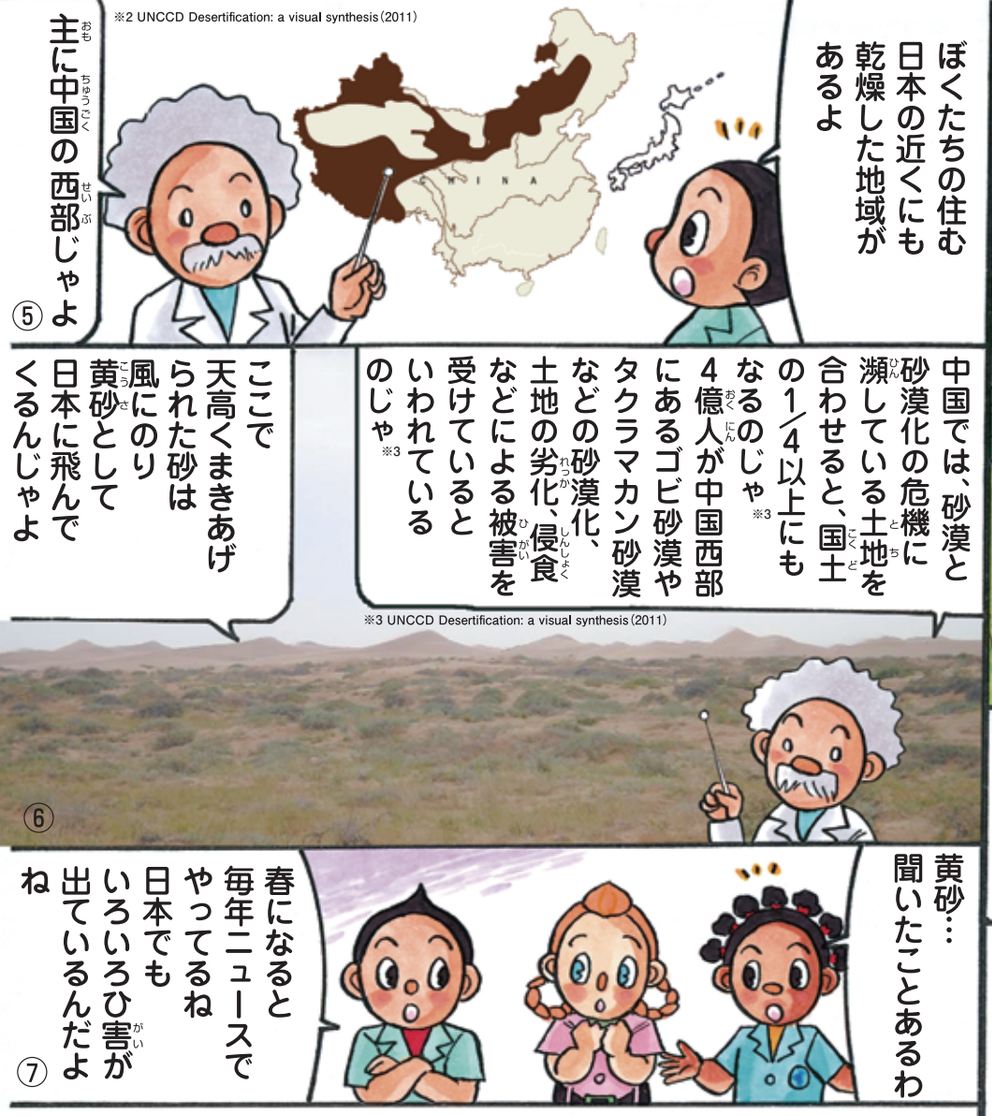
世界の乾燥地域



※1 IPCC Desertification (2019)

湿度の高い地域　乾燥した半湿地地域　半乾燥地域　乾燥地域　超乾燥地域

④



※2 UNCCD Desertification: a visual synthesis (2011)

※3 UNCCD Desertification: a visual synthesis (2011)

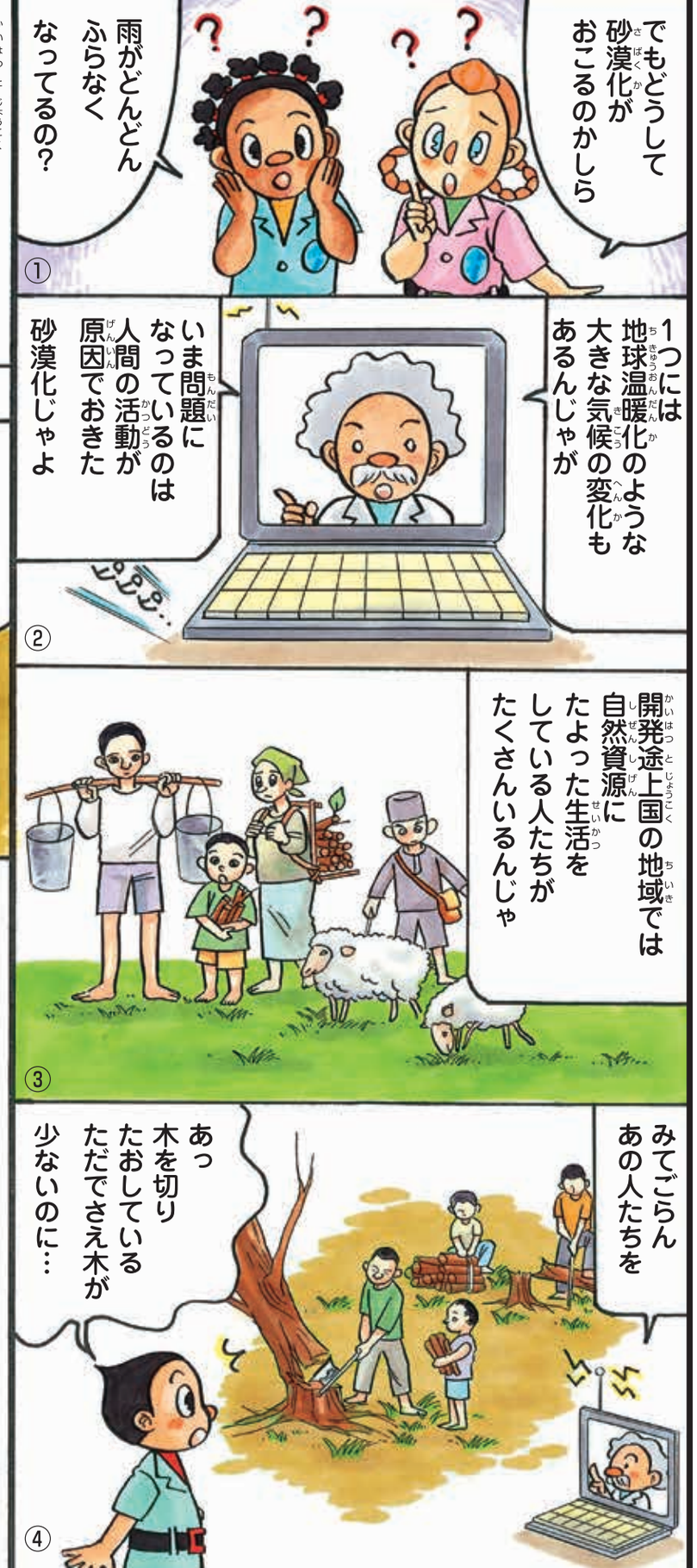
黄砂によるひ害のいろいろ

先生・保護者の方へ

現在、乾燥地域の人口は30億人で、これは地球に住む人の3人にひとりが砂漠を含む乾燥地域に住んでいることを意味しています。また、乾燥地帯の約70％は、アフリカとアジアにあります。乾燥地帯の土地利用について、面積が最も大きいのは、草地で、次に森林や農地となっています。❷

世界の森林面積は、1990年から2020年の30年間で1億7800万ha（日本の国土面積の約5倍）が減少しました。❸特に中国では急速に砂漠化が進行し、その進行は北京周辺にも及んでいます。中国北西部の砂漠の砂が大量に上空に巻き上げられ、偏西風に乗って飛来し、地上に降り注ぐ黄砂は日本にも大きな被害を与えています。

❷ UNCCD Desertification (2019)
❸ FAO 世界森林資源評価 (2020)



砂漠化の原因

砂漠化の原因となるものには気候の変動がありますが、それと同時に、過度な放牧・伐採（木を切る）・耕作（田畑を耕す）・不適切な森林の管理とかんがい（農地に水をひく）・植生（自然の植物）の破壊などといった、人間活動が引き起こすものが重大となっています。

先生・保護者の方へ

砂漠化の原因には、気候的要因によるものと人為的要因によるものがありますが、近年では、人為的な要因がかなり大きいと考えられています。

具体的な要因としては、過放牧❹・過耕作・薪炭材の過剰伐採などがあります。アフリカでは砂漠化の要因としてこの過放牧によるものが大きいと言われています。これは、人口増加にともない、牛や羊などの家畜の数が増加の一途をたどっているからです。

アジアでは、過放牧のほかに森林破壊と農業活動も大きな割合を占めています。森林破壊は、急速な人口増加による薪炭材の過剰伐採が大きな要因となっています。農業活動で行われる不適切なかんがいも、塩害等による土壌劣化を進め、しばしば農地としての利用を不可能にしてしまいます。

その他に砂漠化と密接な関係にあるのが「貧困問題」です。貧しい人々の多くは自然資源に依存した生活を送っています。適切な管理をしないで自然資源を使うことが砂漠化を招き、それがさらに貧困を招くという悪循環が生じているのです。

❹過放牧：その土地が養うことのできる限界を超えて家畜を放牧すること

砂漠化のもたらす深刻な問題

世界全体で砂漠化の影響を受けている土地の面積は3600万平方キロメートル[※4]で、全陸地の約1/4にも当たります。これらは動植物の生息地の減少、生物多様性（動植物の種類が多く豊かなこと）の低下、土壌劣化による放牧地や農地などへの被害を引き起こし、食料供給（食料を得る）の不安定につながります。

※4 UN「DECADE FOR DESERTS AND THE AGAINST DESERTIFICATION」(2010-2020)

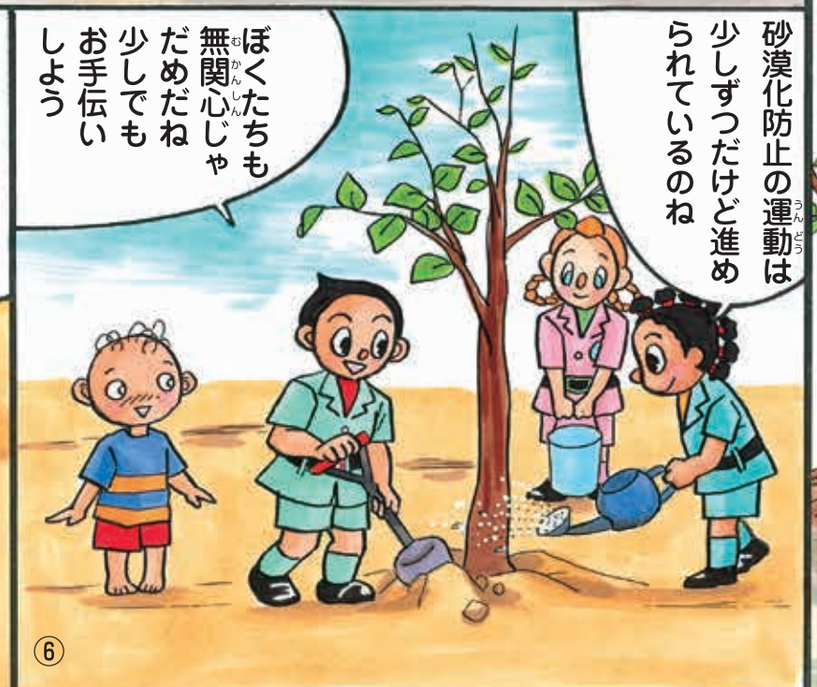
先生・保護者の方へ

世界全体で砂漠化の影響を受けている土地の面積は3600万平方キロメートルで、全陸地の約1/4に当たります。砂漠化の影響としては、動植物の生息地の減少、生物多様性の低下、土壌劣化による放牧地や農地などの食料生産基盤への被害などが挙げられます。また、砂漠化した地域では、食糧不足のために多くの人が餓死したり、農村を離れて都市に流れ込み、スラムでの過酷な生活を強いられている人々もいます。

世界レベルの砂漠化対策

地域的に砂漠化はアフリカとアジアに集中しています。人と砂漠との闘いはとてもきびしく、いったん砂漠化してしまうともとの自然にもどるのは困難です。だから私たちの地球を守るために砂漠化を止めることが大切です。まずは植林活動を広げることから始めましょう。

※改良カマド　土とロバのフン、水などを混ぜて作ります



先生・保護者の方へ

国連は、2006年を『砂漠と砂漠化に関する国際年』と定めました。これは、深刻な干ばつや砂漠化の被害に苦しむ人々に対して、国際社会の認識を高めることを目的として設定されました。

また、砂漠化防止を進めるためには、地域住民や地方政府の参加を得た取り組みが非常に重要であると考えられています。JICAの取り組み例としては、アフリカの国々において、現地の住民参加による植林活動や森林管理の指導、薪の使用量を軽減させる改良かまどの普及などが行われています。また、中国内モンゴル自治区では、遊牧民の収入を増加することでヤギの過放牧による砂漠化問題を改善しようと、種子採種事業のなどの取り組みが行われています。

学校で活用できる JICA国際理解教育/開発教育支援 プログラム

地球ひろば訪問

JICA地球ひろばの目玉展示「地球ナビ」では、SDGsの各ゴールについて学べる。

▲▲▲
地球ひろばの最新情報

「市民参加による国際協力の拠点」としてオープンしたJICA地球ひろば。東京をはじめ全国８か所で、映像やクイズによる展示に加え、民族衣装の試着や世界の料理を味わえるレストランなど、“見て・聞いて・さわって”、途上国の暮らしや地球が抱える課題、国際協力の現状を学べる場所となっている。JICA横浜に併設する海外移住資料館では、日本人の海外移住の歴史と日系人の現在を学ぶことができる。

教員向け研修

１９６５年から続く教師海外研修。約10日間の海外研修と渡航前後の国内研修で構成。

▲▲▲
教員向け研修の最新情報

開発教育に興味・関心のある教員を対象に、途上国を訪問する「教師海外研修」、それぞれの国内拠点でテーマ別に行われる「国内研修」、指導案の作成・授業実践のレベルアップに取り組む「指導者研修」など、対象者や目的が異なるさまざまな研修を実施している。参加者同士の意見交換や協働作業を通してネットワークを築くことで、研修後も各地域の学校教育関係者と連携してさらなる開発教育の推進を図る。

国際協力出前講座

▲▲▲
国際協力出前講座の最新情報

講師がアフリカ地域の民族衣装を着て、現地の生活・文化を子どもたちに紹介。

海外協力隊の経験者や職員、国際協力専門員など国際協力に携わったJICA関係者や途上国からの研修員が講師となり、自らの体験をベースに国際理解につながる内容を伝える。講師が直接訪問する「対面型」と、途上国で活動中の隊員などと交流する「オンライン型」の２種類から選択可能。体験談、異文化理解、国際協力キャリア、SDGsなど希望のテーマに沿って講師と講座内容を組み立てる。

JICAの国内拠点
（★：体験型施設）

もっと知りたい JICA国内拠点
国内拠点の最新情報をJICAのサイトでチェック

開発教育支援教材

▲▲▲
開発教育支援教材の最新情報

冊子教材はダウンロードだけでなく、無料での貸し出しや提供にも対応。

子どもたちが世界の現状や課題について理解を深めるための教材を作成し、無料で提供している。主体的・対話的で深い学びにつながるよう、授業でそのまま活用できるワークや、映像、マンガで学ぶもの、さらにはゲームを取り入れたものまで各種揃える。多文化共生の教材や、教員向けに授業のヒントとなるようなガイド冊子や指導案事例も。すべて地球ひろばのホームページからダウンロードが可能となっている。

国際協力エッセイコンテスト

２０２３年の表彰式での一枚。審査員との座談会や受賞者同士のワークショップも行った。

▲▲▲
エッセイコンテストの最新情報

途上国の現状や日本との関係について理解を深め、グローバル社会の中で自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えてもらうことを目的として、中学生と高校生を対象に毎年開催。上位入賞者には約１週間の海外研修やフェアトレード商品を贈呈。海外研修では訪問国の文化体験や同年代の生徒との交流、現場が抱える課題とそれらに対するJICAの取り組みを視察することで、国際理解をさらに深める。

イラスト／ワークスプレス

「JICA Magazine 2024年12月号」から抜粋

JICA地球ひろば
（独立行政法人国際協力機構）
〒162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5　TEL：03-3269-2911　URL：https://www.jica.go.jp/hiroba/

第一版：2006年11月
第二版：2025年8月

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C023138
FSC www.fsc.org

2025.8